DOMINIQUE DE VILLEPIN

- **Former Prime Minister of France**

LONDON SPEAKER BUREAU

Topics

- Globalisation
- Leadership
- Management
- Politics

ドミニク・ド・ヴィルピンはフランスの外交官および政治家で、フランス外務大臣（2002-04）、内務大臣（2004-05）および首相（2005-07）を務めました。

彼は多国間主義に基づく新しいグローバルガバナンスの最も重要な支持者の一人です。平和と正義の擁護者であるDe Villepinは、イラク危機の間フランスと国際社会の声でした。彼のキャリアを通して、デヴィルピンは戦略を策定し、紛争の解決策を見つけるために働いてきました。彼が2005年の終わりに非常事態の状態を引き起こすことによって支配下に置いたフランスの都市の郊外での暴力から、アフリカと中東の地域紛争まで。フランスでは、彼は失業率を歴史的に約20%削減する「仕事のための戦い」を主導しました。

1995年にシラクが大統領に就任した後、De VillepinはÉlyséePalaceの書記長になりました。 2002年の選挙の後、Chiracはフランスの外交政策を実行するためにDe Villepinを選びました。外相として□De Villepinは彼が米国の戦争事件を非難した国連で演説で国際的なヘッドラインを作り、そして安保理室内で非常に珍しい拍手のラウンドを勝ち取りました。 2004年にde Villepinはフランスの内務大臣に任命されました。彼は違法入国に強く反対し、過激なイスラム原理主義の成長に対抗するために働きました。 2005年にJean-Pierre Raffarinが首相を辞任し、De Villepinが彼の後継者に指名されました。

DeVillepinは非常に尊敬されているグローバルコメンテーターです。テロ、拡散、移民、環境、新たなグローバルガバナンスの状態に基づく国際的対応の必要性、そして新たな国際秩序を築く上でのアイデンティティと文化の尊重の重要性について、彼は私たちの時代の課題について論じています。

De Villepinは 'The Hundred Days;'を含む多くの政治記事、エッセイ、そして本を書いています。ナポレオンの亡命からのエルバへの帰還を中心とした「聖霊の犠牲」（2001）。彼はまた□□The Shark and the Seagull□□2004年）という政治的動機のある詩を出版しました。

info@londonspeakerbureau.my +603 2301 0988